

集会宣言

8月上旬、米海兵隊の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイが沖縄・普天間基地に追加配備された。これにより、昨年と合わせて、合計24機が配備されたことになる。

オスプレイは開発段階から墜落事故を繰り返している欠陥機だ。あろうことか、その欠陥機が人口密集地の真ん中、世界で一番危険な普天間基地に配備されたのである。

沖縄では、昨年9月9日に県民大会が開催され、10万人を超える人々が集まり、オスプレイ拒否の県民の総意を示した。続いて、今年1月29日、県下41自治体の首長、議会関係者が勢揃いし、「建白書」をしたため、日本政府、安倍政権に直訴した。そう、繰り返し繰り返し、オスプレイ拒否の意思を示しているのだ。

歴代政権は何度も「沖縄県民の声に耳を傾ける」としてきたが、何と空々しいことか。ただ、米国のなすがままになっているだけではないか。配備直後から始まった飛行訓練でも、安全確保のために交わした日米間の約束は守られず、夜間飛行、住宅密集地・学校の上空の飛行を繰り返し、事故発生率の高い垂直離着陸モードでの飛行も常態化している。

オスプレイ追加配備のさなかの8月5日、嘉手納基地所属の米空軍ヘリコプターHH60が宜野座村、キャンプハンセンの山中に墜落する事故が起きた。幸い住民、民地に被害は及ばなかったが、2004年8月に起きた海兵隊ヘリの沖縄国際大学への墜落を想起させる事故である。国土の0.6%の面積に74%の在日米軍基地が集中する、過重な基地負担が数多くの事故を引き起こしているのだ。オスプレイの追加配備強行と、ヘリコプターの墜落事故は表裏一体の出来事と言うべきである。



神奈川県は県央部、普天間基地と同じく人口密集地の真ん中に居座る厚木基地でも、看過できぬ動きが相次いでいる。空母ジョージワシントンの修理、停泊期間の長期化をいいことに、半年以上にわたり、違法爆音が240万人の周辺住民の日常生活を脅かし続けた。

また、3月29日には海上自衛隊の哨戒機P-1が強行配備された。1971年、昭和46年に国が地元自治体に通知した「ジェット機の配備は行わない」との約束を自ら反故にしたのである。6月、同型のP-1が試験飛行中に全エンジン停止という事故を起こした。ここ厚木基地も沖縄と同じく、爆音被害と墜落の危険と隣り合わせなのだ。

オスプレイの普天間基地への配備完了により、全国各地での低空飛行訓練が現実味を帯びてきた。私たちは厚木基地への飛来を拒否する。と同時に、その基になっている普天間基地からのオスプレイの撤退と、同基地の即時閉鎖を求める。

来たる9月2日、第四次厚木爆音訴訟が結審となる。提訴以来6年、25回の審理を重ねているが、飛行の差し止めを実現させることができるかどうか。結審から判決に至るまでの間、訴訟の完全勝利に向けた最後の一踏ん張りが求められている。

オスプレイ配備と違法爆音を許さない。私たちは改めて、そう心に決め、基地のない沖縄、基地のない神奈川をめざし、闘っていきたい。

以上、宣言する。

2013年8月24日

オスプレイ拒否・違法爆音を許すな！8/24神奈川集会 参加者一同